

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Higher prevalence of hypertensive disorders of pregnancy in women who smoke: the Japan environment and children's study

和文タイトル: 喫煙妊婦では妊娠高血圧症候群の頻度が高い: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Hypertension Research

年: 2019 月: 4 巻: 42 頁: 558-566

筆頭著者名: 田中宏典

所属UC名: 宮城UC

目的:

妊娠期間中の喫煙は種々の出生アウトカムに影響を及ぼすが、妊娠高血圧腎症のリスクは低下させるとされてきた。本研究では76,303人の低リスク妊婦を対象に、母体喫煙が妊娠高血圧症候群に関連するかを検討した。

方法:

エコチル調査の一環として分析を行った。喫煙状況は参加者の記載したMT1の質問票に基づいた。アウトカムについてはDr0mlに基づいて分類した。喫煙状況については非喫煙、妊娠前に喫煙を中止、妊娠判明後に喫煙を中止、妊娠判明後も喫煙を継続したの4つに分類した。さらに、喫煙継続群を5本以下、6-10本、11本以上の3群に分類した。

結果:

「現在も吸っている」と答えた妊婦では、喫煙をしていない妊婦に比較し、母体要因や社会経済要因で補正後も2.9倍(95%信頼区間2.7-3.2)と有意に妊娠高血圧症候群リスクが高かった。妊娠期間中の喫煙本数が1日当たり1本増加ごとに妊娠高血圧症候群リスクは2%増加し、11本以上の喫煙の継続で1.5倍(95%信頼区間 1.0-2.2)と有意だった。

考察:(研究の限界を含める)

日本全体にわたり、大きな集団で分析を行った研究であり、日本で10本以上の喫煙が妊娠高血圧症候群との発症に関連していることを報告した初めての研究である。

本研究は妊娠高血圧症候群をさらに再分類していないので、先行文献で示されている妊娠高血圧腎症について、本集団でどうであったかについては研究できていないことが限界点である。臨床的にはアンケートだけではなく、生化学ないしは生理学的項目も重要であるが、本研究では分析できていない。

結論:

喫煙の中止は、低出生体重児の出産リスクに加え、妊娠高血圧症候群をはじめとする合併症を避けることができる可能性が考えられた。